

生駒ジュニアラグビークラブ創立50周年記念
花園ミニラグビー交流会参加チーム各位

サイレントラグビー実施要項

前略、日頃より生駒ジュニアラグビークラブの活動にご協力頂き、有難うございます。
さて、ご招待している7月15日の花園ラグビー場での交流会では、小学校中学年以上の試合にサイレントラグビーを導入します。これは、滋賀県ラグビーフットボール協会が取り組んでいるサイレントラグビーリーグの「子どもたちが自ら考え、行動し、試合を楽しむ。その有意義な時間に大人たちは立ち入らない。それを実現させるための大会」という理念が、生駒ジュニアラグビークラブと共鳴するところがあり、ぜひ、この交流会で実施したいと考えるものです。

交流会参加チーム各位も、趣旨をご理解の上、交流会参加者、来場の保護者にも趣旨をご説明いただき、ご協力いただくようお願い申し上げます。

記

1、サイレントラグビーのルール（原則）

- ① 大人は一切口を出さずに、ウォーミングアップから試合まで子どもたちで進める
- ② 登録したメンバー全員が出場できるように子どもたちでメンバーを決める。
- ③ コーチの指示は一切無しとする。

2、交流会の区分

初めての試みであり、試行的に以下のように実施する。

- 1) 幼児および小学校低学年（1・2年生）；サイレントラグビーは実施しない
- 2) 小学中学年（3・4年生）；今回は限定サイレントラグビーを実施
- 3) 小学高学年（5・6年生）、女子タグ、中学；完全サイレントラグビーを実施

3、各カテゴリーでの実施要領

1) 幼児・低学年のタグラグビー（U8）

- ① 幼児の保護者のみグラウンドの規定された場所まで入場し、応援できる。但し、入場にあたっては、スパイクもしくは運動靴に履き替える。1、2年の保護者はスタンドで観戦。

（指定された観戦場所へは人工芝を歩いて下さい。また、観戦は必ず指定のエリアのみとし、プレイフィールドへは入らないで下さい）

- ② 各チームのコーチも、グラウンドへ降りることができる。ウォーミングアップ、試合準備はコーチが手伝う。試合途中の選手の入れ替えは、コーチが指導する。

- ③ 低学年（U-8）規則は、コーチ1名がグラウンドに入り、指導を認めている。コーチを入場させるかはチーム判断に委ねる。
- ④ タッチジャッジ1名は各チームのコーチが行う。
- ⑤ SA（セーフティアシスタント）1名、写真係1名は、ビブスを着用してグラウンドに入ってください。他のコーチは控え選手と一緒に子供達を応援してください。
- ⑥ 試合が終わったら、全員、速やかにグラウンドから退場する。

2) 限定的サイレントラグビー（小学中学年。U10）

限定的とはいえ、中学年の子供達には難しいところもあるかと思いますが、できれば、7月15日までに予行練習を行って下さい。

- ① 大人は口を出さずに、ウォーミングアップから試合まで**極力**子ども達で進める。
- ② グラウンドに降りることができる大人は、各チームのタッチジャッジ1名、SA1名、写真係1名のみとする。**（SAと写真係は必ずビブスを着用して下さい）**
- ③ 西側スタンド人工芝でコーチ1名のみが控え選手と一緒に待機できる。選手入れ替えの助言のみ行うことができる。他のコーチはスタンドより観戦する。
- ④ ハーフタイム、ウォータブレイク時にSA及びコーチは試合に関する指示、助言は行わない。
- ⑤ ウォーターは選手が行う。
- ⑥ タッチジャッジは、各チームのコーチが行う。
- ⑦ スタンドからの声援は、かまわない。（クレームや叱責の言葉は禁止）

注：保護者はグラウンドに入れませんのでスタンドで観戦願います。

3) 完全サイレントラグビー（U12, 女子タグ、U14）

高学年ミニラグビー、女子タグ、ジュニアラグビーは、完全サイレント試合とする（子供達には難しいところもあるかと思いますが、できれば、7月15日までに予行練習を行って下さい。

- ① 大人は一切口を出さずに、ウォーミングアップから試合まで子ども達で進める。
- ② グラウンドへ降りることができる大人は、各チームのタッチジャッジ1名、SA1名、写真係1名のみとする。**（SAと写真係は必ずビブスを着用して下さい。）**
- ③ 西側スタンド人工芝でコーチ1名のみが控え選手と一緒に待機できる。但し、指示・助言は行わない。
- ④ SAは選手の安全管理のみを遂行し、ゲームに関する発言や行動は一切行わない。
- ⑤ 登録したメンバー全員が出場できるように子どもたちでメンバーを決める。
- ⑥ SAはハーフタイム、ウォータブレイク時に、指示・助言は行わない。
- ⑦ ウォーターは選手が行う。
- ⑧ タッチジャッジは、各チームのコーチが行う。
- ⑨ スタンドからの声援は、かまわない。（クレームや叱責の言葉は禁止）

注：保護者はグラウンドに入れませんのでスタンドで観戦願います。

4) その他ルール

サイレントラグビー規則を逸脱したコーチや保護者に対し、レフリーや大会運営委員の権限でバッテンマークのマスク着用することを指示することができる。

サイレントラグビーの規則・実施に関するご質問は生駒ジュニアラグビークラブ「50周年記念事業準備チーム」へお問い合わせください

(mail to : maymayyagi3@kcn.jp)

以 上

(参考) 滋賀県ラグビーフットボール協会 上田副理事長「サイレントラグビー」

「子どもたちが自ら考え、行動し、試合を楽しむ。その有意義な時間に大人たちは立ち入らない。それを実現させるための大会」

「多くの指導現場で大人の声に委縮する子どもたちを見てみました。それは良くないと思っていましたが、考えてみれば自分も言っていました。子供たちの声だけが響き渡るようにしたいのです。はがゆいこともあります。黙って見守っていると、子供たちから思わぬ声が出てきます。ミスをして自分たちで声を掛け合い、そのミスを取り戻す。プレーのミスは取り返せることに気づくのです。自分たちで考えた結果は身になります」

サイレントラグビーリーグは、「子どもたちが“自ら考え行動し試合を楽しむ”場を創出する。」ことを目的に、2021年にスタートしたリーグ戦（勝ち点制）です。

今年度は小学3・4年生と5・6年生を対象に、年間4節行うもので、今回は第3節が行われました。リーグ戦のルール概要は以下のとおりです。

- ・4チームで総当たりを行い、第四節の総合勝ち点で優勝を決める
- ・大人は一切口を出さず、ウォーミングアップから試合まで子どもたちで進める
- ・登録したメンバー全員が出場できるように子どもたちでメンバーを決める
- ・コーチの指示だけでなく、保護者からの声援も一切無しとする

通常行われている大会では、指導者の大きな指示の声、応援する親御さんの声援が響き渡る情景が一般的ですが、この大会では子供たちの声だけの“静かな、大会。

この大会独自のルールのとおり、大人たちはいっさい声を出さず（我慢して見守る）、子どもたちが自分たちで考えて、声を掛け合い、チームとして何とか勝とうと目の前の課題を解決しようと協力する。そうした環境の中から子どもたちの成長を促すことを期待した取り組みです。

型にはまらず、自由な発想と自分たちで考えるという成長期の貴重な経験が、子どもたちをより逞しく育てる機会になる大会として、さらに成長されることを願います。

（朝日新聞記事）グラウンドに目を向けると、子供たちが仲間を鼓舞し、指示を出し、楽しげに走り回っている。トライをする際にノックオンしてしまった子を、みんなでからかいながら励ましている。周囲で見守る保護者が声を出そうとして我慢しているのも伝わ

る。一度だけ、「トライしてー！」と思わず叫んだお母さんがいた。それが響きわたって異彩を放つ静けさ。もちろん、いいプレーや、惜しいミスには思わず声が出る。それは微笑ましい。大人はレフリー、時間管理と選手のメンバー紹介などに徹した。「大人も成長するところを狙っています」（上田さん）。黙って見守ることは意外に難しい。子供の自主性を育み、みんなが成長できる大会だと感じた。上田さんは、この大会自体を大きくするのではなく、こうした小さなサイレント・リーグが全国に広がることを願っている。

滋賀県内の三つの小学生年代のラグビークラブが集い、5、6年の部と3、4年の部に分かれ、「サイレントリーグ」が行われた。

大人は黙る。それがリーグ名の意味するところだ。

メンバーは子どもたちが決める。試合中もウォーミングアップ時も、コーチ、保護者は子どもたちに接触できない。登録選手は全員が必ず、試合に出るようにする。

大会目的にはこう明記されている。

「子どもたちが自ら考え、行動し、試合を楽しむ。その有意義な時間に大人たちは立ち入らない。それを実現させるための大会」

1月に、愛知県岡崎市でサッカーのサイレントリーグが行われた。ラグビークラブ「The Ants (アンツ)」ゼネラルマネジャー (GM) で、滋賀県ラグビー協会の副理事長などを兼務する上田恭平さんが、その様子をルポした2月の朝日新聞の記事を読み、「ラグビーでも」と、ピンときたという。サッカーの大会を主催したスポーツマネジメントグループ「Asian LABO」の承諾も得て、同じ大会名を冠した。

「大人が、やいやい言う弊害を何とかしたい」上田さんはそう話す。

「プレー中に『ああやれ、こうやれ』と大人が介入すると、子どもはそれ以外を選択しなくなる。でも、スポーツの良さは、自由にチャレンジして、自分で解決する能力を高めるのに最適なところ。特に、伸び盛りで可能性がある年代は、失敗し、それを取り返すプロセスが大事です」

「スポーツの失敗は、失敗でも何でも無い。なのに、大人が目の色を変えて失敗を責める。結局、言われたことだけをやり、問題解決能力も批判的思考も持てない人間を育てていくだけになります」

「ラグビーはボールを持って走っても、蹴っても、パスを回してもいい。自由度の高い競技です。選択肢を縛って、『おもしろくない』としたくないのです」

たまに褒める声かけは良いんじゃないかみたいな意見がありますが、個人的には違うと思って、褒めちゃうと基準を大人に設定しちゃうんで自分で考えなくなるんですね
大人ができるのは子供と一緒に課題や制約を設けることと、困った時のセーフティネットぐらいだと思います

